

浦和駅周辺まちづくりビジョン ～概要版～

1. ビジョンについて

1-1 策定の背景・目的

市民一人ひとりが更なるしあわせを実感できる都市を目指し、将来にわたり持続可能な都市であり続けるためには、さいたま市（以下、本市）を取り巻く社会経済状況に柔軟に対応し、市民協働・公民連携により浦和らしい風格ある都市づくりを推進していく必要があります。

そのため、まちの将来像やまちづくりの方針を明らかにし、浦和のまちに関わる市民、事業者、行政等の多様な主体が共有する指針として、「浦和駅周辺まちづくりビジョン」（以下、本ビジョン）を策定します。

1-2 目標年次

国が示す「国土の長期展望」や本市の「総合振興計画」等との整合を図り、**概ね 30 年後（令和 32（2050）年頃）**のまちの姿を展望し、その実現に向けたまちづくりの方針を示します。

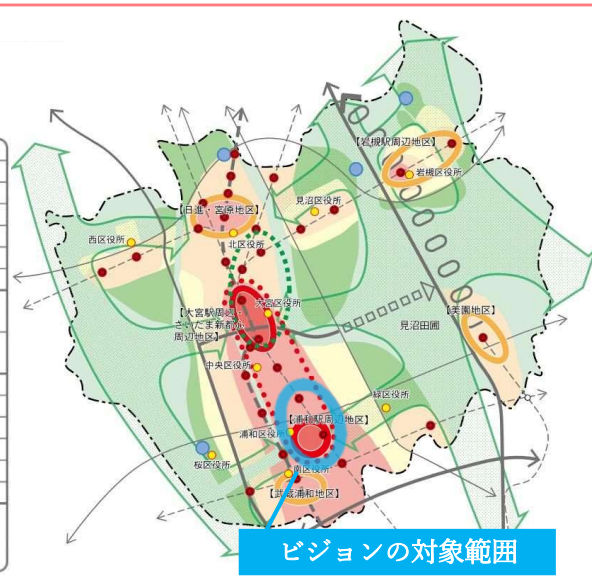
1-3 位置付け

「総合振興計画」や「都市計画マスタープラン」に位置付ける、本市の都心が目指すまちづくりの方向性に即し、作成します。



1-4 対象範囲

「都市計画マスタープラン」の将来都市構造図に示す都心拠点（浦和駅周辺地区）及び中心市街地の範囲のうち、浦和駅、北浦和駅、埼玉県庁、浦和区役所等を包括する概ねの範囲を本ビジョンの対象とします。



2. 浦和駅周辺の果たすべき役割

2-1 浦和駅周辺地区の位置付け・役割

本市の上位計画である「総合振興計画」及び「都市計画マスタープラン」より、浦和駅周辺地区の位置付けや役割を整理しました。

浦和駅周辺地区の位置付け

【総合振興計画】

行政機能を担うとともに、**商業・業務機能や文化機能を中心とした機能の集積を図り、都心としての形成を進めます。**
また、**駅周辺における商業機能・文化機能等の集積強化・再形成や回遊性の向上などによるにぎわいの創出と、歴史文化資源や「県都」「文教都市」といったイメージを生かした、“洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心地区”の形成を目指します。**

【都市計画マスタープラン】

【目標像】
行政機能、多彩な商業機能や文化・交流機能が集積し、各機能が**快適な歩行者空間ネットワークとみどりのネットワークで結ばれた都心の形成**を目指します。
【まちづくりの方向性】
○県及び市の行政施設の集積や文化交流施設の立地を生かし、**商業業務機能、文化・交流機能、都心居住機能を充実させ、各機能のバランスのとれた都心を形成**します。
○**都心居住としての住環境の確保**を図ります。
○鉄道高架化により市街地の分断が解消されたことを生かし、東西方向の道路の整備を進めるとともに、駅東西の機能集積を強化し、**にぎわいや回遊性を高める市街地の再構築を推進**します。
○中山道沿道などの歴史文化資源を生かしたまちづくりや県庁通りの道路環境整備などを推進し、**風格のある景観形成**を図ります。

浦和駅周辺地区のまちづくりの必要性

【まちづくりの必要性】 「多くのまちの利用者にとってメリットがあり、本市の将来都市像の実現に寄与する」

①これまでに培ってきた資源をアップデートし、時代に合った機能を発揮する
②地域経済の活性化やにぎわい・活力の創出、新しい価値の創造につながる
③市民等の多様なニーズやライフスタイルに応じた快適性・利便性の向上に資する

2-2 まちの将来展望

まちの将来展望として、社会情勢の変化やそれに伴う価値観の変化、将来を見据えて浦和のまちが重視すべきものについて整理しました。

浦和を取り巻く社会情勢の変化

浦和駅周辺のまちづくりの検討にあたり、注視すべき社会情勢として、以下の事項が挙げられます。

- ①持続可能な開発目標（SDG s）
- ②本格的な人口減少・超高齢時代の到来
- ③経済のグローバル化と都市間競争の激化
- ④安全・安心に対する意識の変化
- ⑤社会の多様性と市民協働・公民連携の高まり
- ⑥急速に進化する情報社会
- ⑦地球規模での環境問題の深刻化
- ⑧居心地が良く歩きたくなるまちなかの推進

将来を見据えて浦和のまちが重視すべきもの

将来を見据えて「浦和のまちが重視すべきもの」について、有識者の方々にご意見をいただきました。

①強みを伸ばすグローバルな視点

浦和のまちの住みやすさを維持し続けるためには、新技術を積極的に活用しながら、まちで活発な交流や活動が生み出される持続可能な経済のシステムを構築していくことが求められています。

②非常時の機能維持

浦和駅周辺のまちは、非常時にも市域を超えて地域社会に貢献することができる強靱性（レジリエンス）を備えることが求められています。

③浦和が誇るプライドと多様性

浦和のまちを通じて、新旧住民や幅広い世代間など、多様な人と人がつながる場や機会が重要です。

④将来に向けたスマートなまち・ひと

浦和のまちの特性を踏まえたうえで、新たなモビリティやライフスタイル等の変化を受け入れ、新技術の導入や脱炭素化したスマートなまち・ひとのあり方を検討していく必要があります。

⑤心を動かす路地性・界索性

地域資源は守りつつ、開発と保全の両立・調和を図り、まちに面白さや新たな発見をもたらしてくれる路地性・界索性を生かした、ウォーカブルなストリート形成が重要です。

変化する価値観

時代の変化や技術革新等によって「ひと」と「まち」はどう変わるのか、想定される変化について整理しました。

「意識・考え方」の変化 固有の魅力・個性・特色が重視される

あらゆるものがスマートになり、共有されることで、多すぎる情報の中から認識されるために、固有の魅力・個性などの“特色”となるものがより一層重視されるようになり、人々はその“特色”を見て選択の判断をするようになると考えられます。

「ひと」の意識・考え方の変化

“感性”や“想像力”が財産になる

「感性」「想像力」など人の感受性を持って補う必要がある「芸術」や「教育」の分野において、ひとの活躍が顕著になると考えられます。
また、リアルな場で体験や交流、ひとのつながりは、今後更に重要になると考えられます。

「まち」の環境の変化

まちなかにゆとりが生まれる

「シェアリングエコノミー」の加速により、環境にやさしくサステナブルな社会になると考えられます。
また、自動運転や MaaS の発展によりひと中心のまちづくりが今よりも主流になると考えられます。

3. 浦和の宝

3-1 浦和のまちの歴史

浦和のまちは、江戸時代に中山道が整備され、宿場町として繁栄し、明治時代には県庁が鹿島台に置かれて県都（行政の中心地）として発展しました。戦後は、東京の衛星都市として急速に市街地が拡大。平成 13（2001）年に本市が誕生し、平成 15（2003）年に政令指定都市へ移行、現在に至っています。

3-2 浦和のまちの特長

浦和のまちには、浦和駅周辺の商業・業務施設の集積や西側エリアへの県庁・市役所などの公益施設の集積をはじめ、教育施設、玉蔵院や調神社・美術館などの歴史・文化施設、公園等がバランス良く立地しています。浦和のまちの特長である 7 分野を切り口に、まちの現状や想い、問題・課題を整理しました。

① 文化・教育

【現状】

- 「鎌倉文士に浦和絵描き」と言われており、浦和のまちには別所沼公園をはじめとする浦和の原風景を感じられる景観や歴史ある額縁屋、画材屋などが立地しています。
- 浦和駅及び北浦和駅周辺には、県立浦和高等学校や県立浦和第一女子高等学校、市立浦和高等学校など、全国的にも有名な進学校が立地しています。
- 高砂小学校は日本で最も古い歴史ある小学校の 1 つであり、令和 3（2021）年度に創立 150 周年を迎え、浦和のまちのシンボルとなっています。 等

【まちへの想い（市民意向・有識者意見等）】

- 浦和の歴史ある文化や芸術を後世に残し、伝えていくことが重要である。
- 良い学校が多く集積し、公教育等が充実してきたことが文教都市の礎となっている。
- 浦和のまちの教育環境の発展が、浦和のひとや地域性の醸成につながっている。 等

【問題・課題】

- 浦和のまちの文化・芸術資源を保全し、後世に伝承していく必要があります。
- 「文教のまち」として、浦和の公教育の水準を維持・向上していく必要があります。 等



高砂小学校

② スポーツ（サッカー等）

【現状】

- 明治 41（1908）年に、浦和にある埼玉県師範学校に細木志朗教諭が赴任し、生徒に実技を指導したことが「埼玉サッカー」の始まりとされています。
- 平成 5（1993）年の J リーグの開幕以後、浦和レッズのホームタウンとして、行政・地域住民・商店街が一体となり、サッカーによるまちづくりを推進しています。 等

【まちへの想い（市民意向・有識者意見等）】

- サッカーは浦和のまちに沁みついている。アイデンティティになっている。
- 浦和レッズのファン、サポーターは熱く、日本一のサポーターである。
- 浦和レッズ（サッカー）を通じて、浦和のまちの人々が一体になり、大きなエネルギーを生み出すことができる。 等

【問題・課題】

- 浦和のサッカー（スポーツ）の歴史や文化を後世に伝承していく必要があります。
- 行政・商店街・地域住民等が一体となり、サッカー（スポーツ）によるまちづくりをより一層推進していく必要があります。
- まちなかにおいて、スポーツを楽しむ場やスポーツを通じて人々の交流やコミュニティの形成を促す場や機会を創出していくことが求められています。 等



埼玉サッカー発祥の地の碑

③ 県都・行政

【現状】

- 明治 4（1871）年の埼玉県の誕生以降、埼玉県庁が立地し県都となっています。
- 浦和駅周辺の徒歩圏内に県庁・市役所等の行政機関が立地し、平日の日中は就労者が多くみられています。
- 埼玉県庁やさいたま市役所、市民会館うらわ等をはじめ、行政施設の老朽化が進んでいます。 等

【まちへの想い（市民意向・有識者意見等）】

- 埼玉の行政の中心地であることが浦和の強み（インテリジェンス）となっている。
- 埼玉県庁の周辺は、風格を感じられる景観・まち並みが形成されている。 等

【問題・課題】

- 埼玉県と一体となり、県都としてのまちづくりをより一層推進していく必要があります。
- 行政施設の計画的な維持・管理、保全を進めるほか、建替えにあたり、新たな都市機能やサービスの導入を図ることが求められます。
- 埼玉県庁やさいたま市役所本庁舎周辺の県都としての風格のあるまち並みの保全や形成に取り組む必要があります。 等



埼玉県庁

3-3 浦和のまちの宝

『浦和のひと』

～URAWA プライド（誇り・愛着）～

「浦和のひとが長い年月を経て培ってきた県都や文教都市、スポーツのまちなどが誇りであり、それを生み出し、育て、継承している「浦和のひと」こそが、浦和のまちにとって、何よりも輝く、将来に継承すべき“浦和のまちの宝”である」

④ 居住・交通

【現状】

- 浦和駅周辺の人口・世帯数は、令和 2（2020）年時点で 54,073 人・25,364 世帯であり、現在も増加傾向を示しています。
- 浦和駅の令和 3（2021）年度の一日平均乗車人員は 77,670 人であり、県内第 2 位となっています。 等

【まちへの想い（市民意向・有識者意見等）】

- 浦和は居住が中心のまちであり、保育所などの居住サービスの需要が高い。
- 浦和駅に長距離電車が止まり、都心へ乗り換えなしで行くことができ、交通の利便性が高い。
- 町内会での活動が盛んであり、地域住民の繋がりが深い。浦和のまちが親子 3 世代で暮らし続けるまちになると良い。 等

【問題・課題】

- 「住みよいまち／住み続けたいまち」として、既存の居住・交通環境の維持や更なる機能強化に取り組む必要があります。
- マンション等の新たな住宅建設にあたり、周辺環境との調和や共存を図る必要があります。 等

⑤ 商業・業務（地域経済）

【現状】

- 宿場町として発展し、現在も旧中山道や県庁通り、裏門通り等の沿道では江戸時代や明治時代から続く老舗が立地しています。
- 伊勢丹浦和店、浦和コルソやイトーヨーカドー浦和店は開業から 40～50 年が経過しており、施設の老朽化が見られています。 等

【まちへの想い（市民意向・有識者意見等）】

- 浦和駅周辺に商業環境が集積し、買い物に便利なまちである。
- 都会的でありながら、雑多な路地型商店街が浦和の商業の特徴である。 等

【問題・課題】

- 中山道沿道など、歴史ある商業のまち並みが形成されているエリアでは、開発と保全のバランスを保ちながら、浦和の歴史・文化を感じられる商業環境を保全していく必要があります。
- 「商業のまち」として、既存の商業施設・商店街の計画的な維持・保全を図るとともに、更なる機能強化に取り組む必要があります。 等



伊勢丹浦和店、浦和コルソ

⑥ 緑・景観

【現状】

- 浦和を代表する公園として、「別所沼公園（総合公園）」と「常盤公園（近隣公園）」等があります。
- 別所沼公園から武蔵浦和駅方面へグリーンベルトが整備されているほか、鴻沼川側道に遊歩道が整備されています。 等

【まちへの想い（市民意向・有識者意見等）】

- 浦和駅周辺には身近に緑が感じられ、落ち着きのあるまちとなっている。浦和のまちの水資源も貴重な地域の財産である。
- 公園等の公共空間の有効活用を促進し、市民が活動できる場を創出することが必要。 等

【問題・課題】

- 別所沼公園や常盤公園等において、地域の課題や特性に応じ、ポテンシャルを更に発揮するためのパークマネジメントの推進が求められています。
- 市民の憩い、交流の場として、浦和らしい景観を維持・創出していく必要があります。 等



別所沼公園

⑦ 防災

【現状】

- 浦和駅周辺には市役所や県庁をはじめとする中枢的な都市機能の集積があり、広域防災拠点としての機能を有しています。 等

【まちへの想い（市民意向・有識者意見等）】

- 浦和駅周辺（東口）は台地に位置し、比較的災害に強い（災害被害が少ない）まちである。
- 災害時の帰宅困難者について、事前の対策の検討が必要である。 等

【問題・課題】

- 広域防災拠点として、公共施設等の防災機能の強化・充実に取り組む必要があります。
- 浦和駅周辺の延焼リスク・避難困難リスクの高いエリアや内水氾濫リスクの高いエリアでは、地域特性を踏まえた防災対策を講じていく必要があります。 等

4. 浦和のまちの将来像

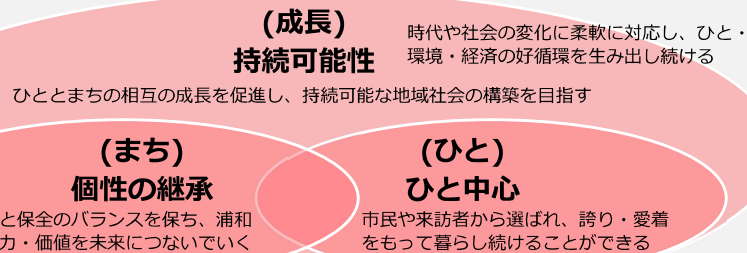
4-1 基本理念

浦和のまちの将来像に向け、まちづくりの根底として大切にしていきたい不変的な考え方として、『まち：個性の継承』、『ひと：ひと中心』、『成長：持続可能性』の3つを基本理念に設定しました。今後、この3つの基本理念に基づく、まちの将来像を実現することで、浦和のひとの『Well-being（幸福な状態・生活の豊かさ）の向上』を目指していきます。

【将来の浦和】基本理念に基づくまちの将来像の実現により、浦和のひとの『Well-being（幸福な状態・生活の豊かさ）の向上』を目指します。

Well-being（幸福な状態・生活の豊かさ）の向上

【基本理念】浦和のまちづくりにおいて大切にしていきたい不変的な考え方として、『まち：個性の継承』、『ひと：ひと中心』、『成長：持続可能性』の3つを基本理念に設定しました。



【現在の浦和】現在の浦和として、「まちの役割」、「まちの特長」、「まちの宝」を整理し、浦和のまちづくりの根底となる基本理念を検討しました。

まちの役割

- ・多彩な機能の集積
- ・歩行者・みどりのネットワーク

まちの特長

- ・文化・教育
- ・サッカー
- ・県都 など

まちの宝

- ・浦和のひと
- ・URAWA ブライド

4-2 将来像

浦和のまちの将来像として、総合振興計画の浦和駅周辺地区の目指す方向性からまちの将来像を『洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心・浦和』と設定しました。

また、まちの将来像の実現に向けて発展の方向性を次の3つに区分し、まちの将来像のイメージを設定しました。

<まちの将来像>

洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心・浦和

4-3 将来像のコンセプト

浦和のまちの将来像について、浦和のまちの特長である7つの分野に、まち全体をアップデートする「新技術活用（Society5.0・DX等）」と「環境・エネルギー」も含めた9つの分野毎に、目指すまちの姿（コンセプト）を設定しました。

①新技術活用（Society5.0、DX等）

<まち × 成長>

浦和のまちの魅力や資源をリアルとバーチャルな空間で体験できる環境（デジタルツイン）が整備され、スマートシティとなっています。

<ひと × 成長>

浦和のひとは、デジタル技術の普及により、高齢者や障害のある方、外国人など様々な人々が多様につながり、コミュニケーションを楽しむことができます。

②文化・教育

<まち × 成長>

浦和のまちには、年齢を問わず、まちでの様々な体験を通して自分の特性や向いているものをみつけ、夢につながる環境があります。

<ひと × 成長>

充実した教育環境や学び合いの機会によって、人生100年時代の生涯を通じた成長ができ、自己実現を通じて幸せを感じています。

③スポーツ

<まち × 成長>

スポーツを「する場所」と「みる場所」が一体となった施設では、スポーツを通じたボーダーレスなコミュニティ形成が図られ、にぎわいと活気に溢れています。

<ひと × 成長>

浦和のひとがプレイヤー・ファン・サポーターになり、リアルとバーチャルのデジタルツインで、日常的にスポーツを楽しんでいます。

④県都

<まち × 成長>

市民・県民・国民の暮らしを維持・発展させ続けるため、埼玉県庁とさいたま新都心にある国の機関が連携し災害対応等の司令塔を担っています。

<ひと × 成長>

県都や都心の浦和にある中枢機能を生かしながら、浦和のひとや企業は、インクルーシブなモノ・コト・情報等で協力して、地域に貢献しています。

⑤居住・交通環境

<まち × 成長>

自動運転技術やパーソナルモビリティ等が普及し、高齢者や障害のある方、外国人の方など誰でも快適に、浦和のまちなかを移動することができます。

<ひと × 成長>

都市空間の再構築・再整備により創出された居心地の良いまちなかで、浦和のひとは徒歩や自転車、バスのほか、パーソナルモビリティでウォカブルに暮らしています。

⑥商業・業務環境（地域経済）

<まち × 成長>

浦和のひとのライフスタイルにつながるサービスや、生活シーンに応じた多様なニーズに応える商業環境となっています。

<ひと × 成長>

浦和のまちの路地や坂を舞台として、まちの界隈性を生かしたゆっくりのんびりできる空間と、偶然の出会いやひととのつながりの面白さを楽しんでいます。

⑦緑・景観

<まち × 成長>

浦和のまちの水や緑は、エコロジカル・ネットワークでつながり、多様な生物や自然と身近にふれあえています。

<ひと × 成長>

浦和のひとや企業が創る、都心ならではの緑や落ち着きのある景観が、ひとの想いをまちに波及させ、心地よさを日常的に感じながら暮らししています。

⑧環境・エネルギー

<まち × 成長>

再生可能エネルギーや緑等の資源を有効活用し、脱炭素化した浦和のまちは、次世代に継承できる自然環境と、安定したエネルギー基盤を備えています。

<ひと × 成長>

浦和のひとが浦和のまちの環境改善やエネルギーの有効活用につながる新たなサービス・ビジネスを立ち上げています。

⑨安全・安心

<まち × 成長>

浦和は都心のまちとして、災害時でも市民生活・経済活動を継続する強靭さを持っています。

<ひと × 成長>

災害・犯罪・事故・パンデミックや、食・健康のような心や身体に関わること等のリスクに対して、様々な対策によりストレスを軽減し、安心して暮らし続けることができます。

4-4 将来の生活シーン

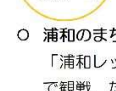
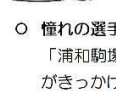
まちの将来像のコンセプトから、浦和のひとが将来どんな生活を送っているかを「将来の生活シーン」として整理しました。

～20代・学生・単身世代



浦和レッズの大ファンで将来はスポーツ関係の仕事に就きたい10代高校生

- ・高校のサッカー部に所属している
- ・大学でスポーツ科学を学びたいため、勉強も頑張っている
- ・将来は海外でスポーツ関連の仕事に就きたい



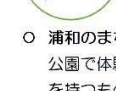
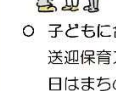
- 憧れの選手との出会いから夢になる「浦和駒場スタジアム」のイベントで、プロ選手に教わったことがきっかけで、サッカーが好きになり、今まで続けている。
- サッカーを通じて、スポーツの楽しさを仲間と分かち合うスポーツ科学等を取り入れるなど、様々なひとの支援や協力を得て、サッカーに取り組むうちに、スポーツを支える仕事にも興味を持った。
- 浦和のまちと一緒に盛り上げたい「浦和レッズ」の海外チームとのアウェー戦をパブリックビューイングで観戦。たくさんひとが集まり、まちは活気と一体感で溢れている。

30～40代（未就学児含む）・夫婦・子育て（共働き）世代



仕事も子育てもプライベートも楽しむ30代ママ

- ・子育て環境を選び浦和に移住
- ・小学生と未就学児の子どもがいる
- ・仕事と家庭の両立を目指す



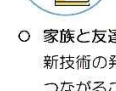
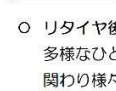
- 子どもに合った保育施設やワークスペースを自由に選べる送迎保育ステーションを利用して子どもを保育施設に送り、今日はまちの雑踏を感じられる場所でテレワークをする。
- 地域にママも子どもも居場所がある子どもの絵画教室の間に、子育てについて学ぶ講座に出席。専門家や先輩ママ達から様々な経験談を聞いて参考にしている。
- 浦和のまちで子どもの夢につながる様々な体験ができる楽しみ公園で体験型のイベントを親子3世代で楽しんだ。子どもが興味を持つものを発見できたので、嬉しい応援したい。

50代～70代・中高年世代



リタイヤを機に新たな事業にチャレンジする若者をサポートし、浦和のまちに貢献したい50代男性

- ・これまでの仕事で培ってきたスキルに自信がある
- ・子どもが独立し、妻と2人で暮らす
- ・充実したセカンドライフを過ごしたい



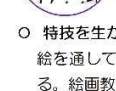
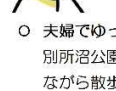
- リタイヤ後も自分らしく自由に生活がしたい多様なひとが培ってきたスキルを伝えられる場で、様々な年代と関わり様々なスキルを吸収している。
- 自分の強みを浦和のまちやひとへ還元できる喜び夢のある若者へのサポートを行い、自分のスキルを伝承できる実証実験を行うことで浦和のまちの経済が循環し、浦和のまちが豊かになっている。
- 家族と友達との時間を大切にする新技術の発達により、浦和のひとだけでなく全国・世界のひととつながることができ、コミュニケーションをとっている。

80代～・人生100年世代



豊かな自然環境の中で、生き生きと暮らし80代女性

- ・別所沼周辺に最近住み替えた。娘夫婦も浦和駅周辺に在住
- ・ゆったりのんびり快適に暮らしたい
- ・子どもとのふれあいや絵を描くことが好き



- 夫婦でゆっくりとした時間を過ごしたい別所沼公園で、鳥のさえずりや、水や緑など身近な自然を感じながら散歩している。
- 無理なく離れた家族と会える体力に不安を感じているが、自動運転の車で快適に移動し、娘夫婦と一緒に昼食をとることが楽しみ。
- 特技を生かして、浦和の文化芸術を伝える絵を通して、地域の子どたちに絵画の面白さを伝えている。絵画教室の手伝いが生きがいとなっている。

